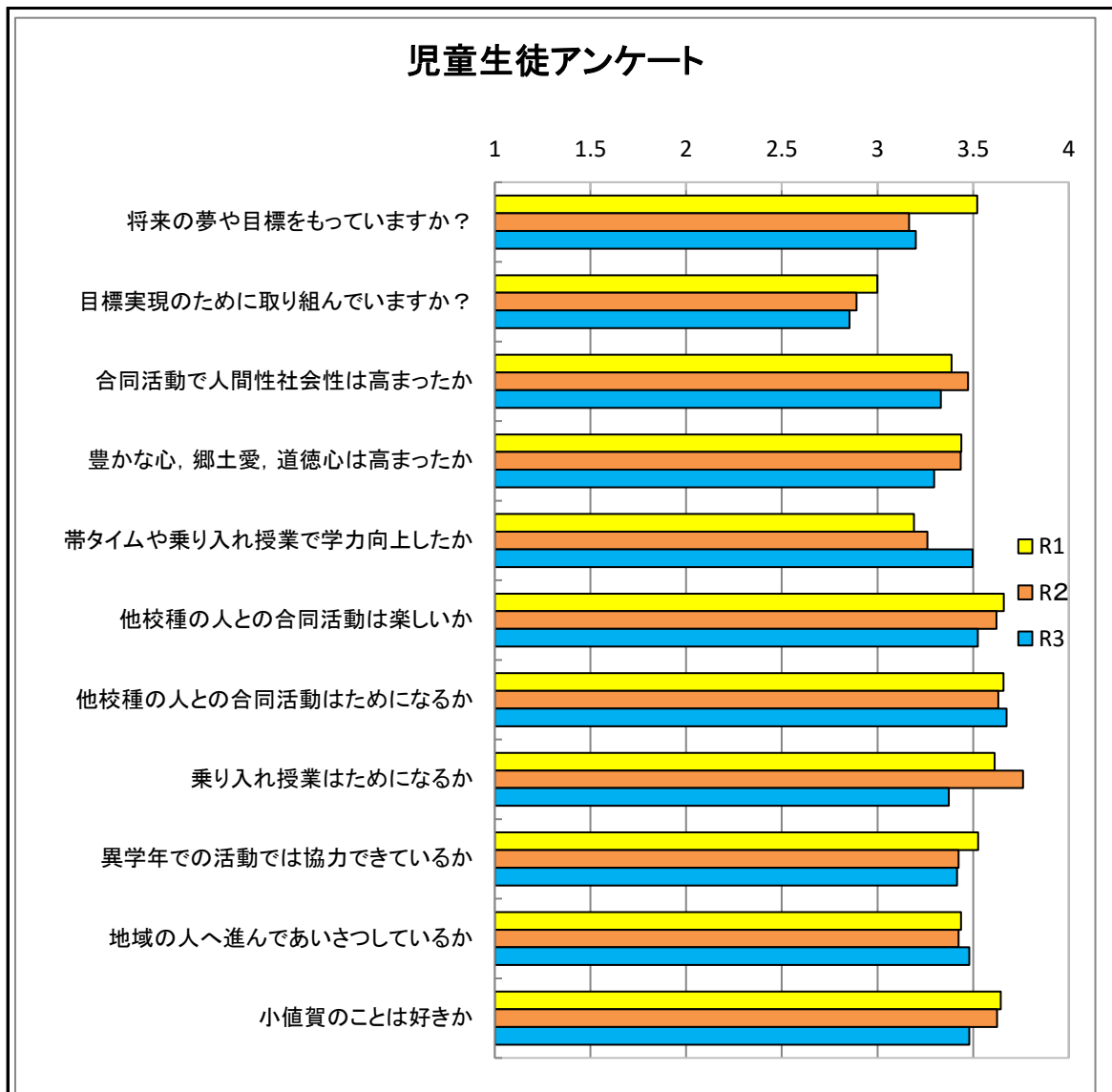


2 検証アンケートについて

- 本データは、令和元～3年度まで3年間の実施分を集計したものである。
- アンケートの実施及び分析方法
各質問項目について、4段階で回答、各項目の平均ポイント数の値（3年間の変化）について、その背景等を分析した。

4：とても思う 3：だいたい思う
2：あまりそう思わない 1：全くそう思わない

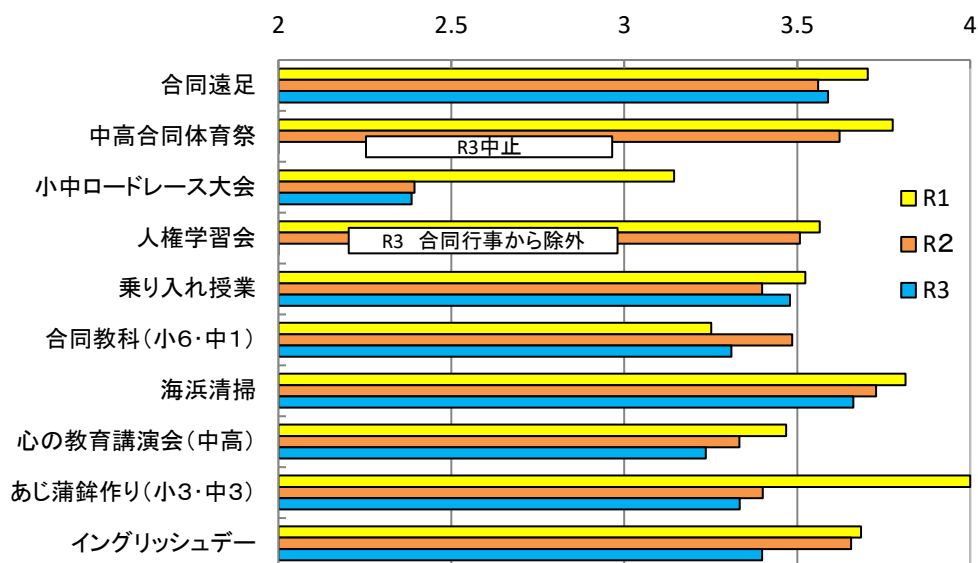


○昨年度と比較すると、将来の夢や目標を持っている児童生徒は僅かに増加した。一方、「実現のための取組をしている」児童生徒が減少しており、（上グラフには表われないが内訳を見ると）高校生に比べて小中学生の低さが目立つ。キャリア教育の改善など、児童生徒の夢の実現へのサポート体制を見直すなどの対策が必要であると考えます。

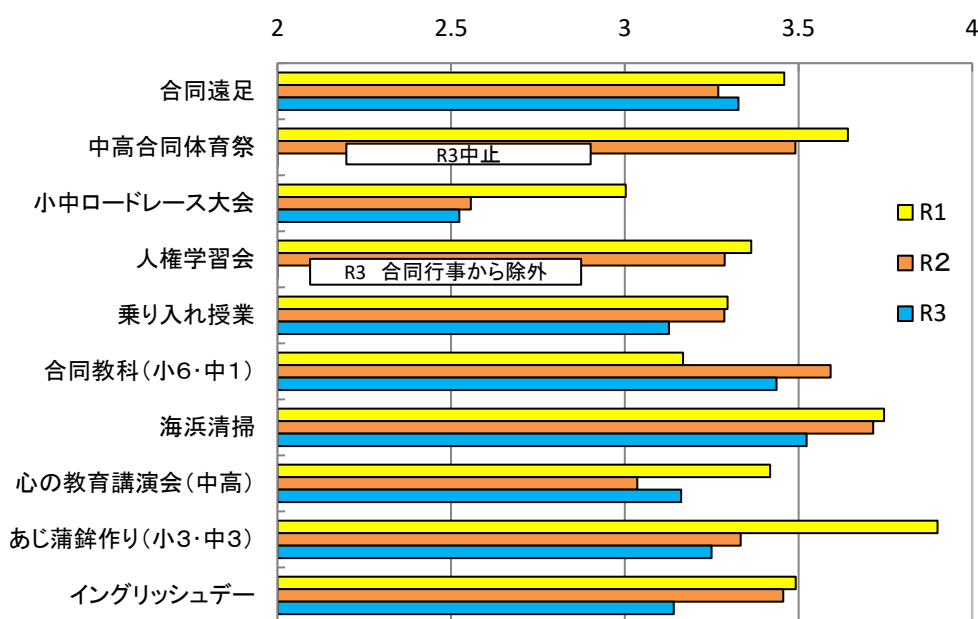
○「他校種の人との活動はためになる」と回答する児童生徒がは例年通り多いものの、「他校種の人との合同活動は楽しい」と回答した児童生徒が減少した。コロナ禍にあり、活動面において制限があるため、楽しさを十分に味わうことができなかったことも考えられる。制限下で、児童生徒にとって意義のある充実した活動になるようにしていきたい。

○若干ではあるが、「小値賀のことは好き」と回答した児童生徒が減少していることは、気になることである。今後、計画されている民泊体験学習など、郷土のよさや価値を実感させながら、ふるさと教育の充実を図りたい。

生徒アンケート(合同行事は有意義か?)



生徒アンケート(合同行事には積極的に?)

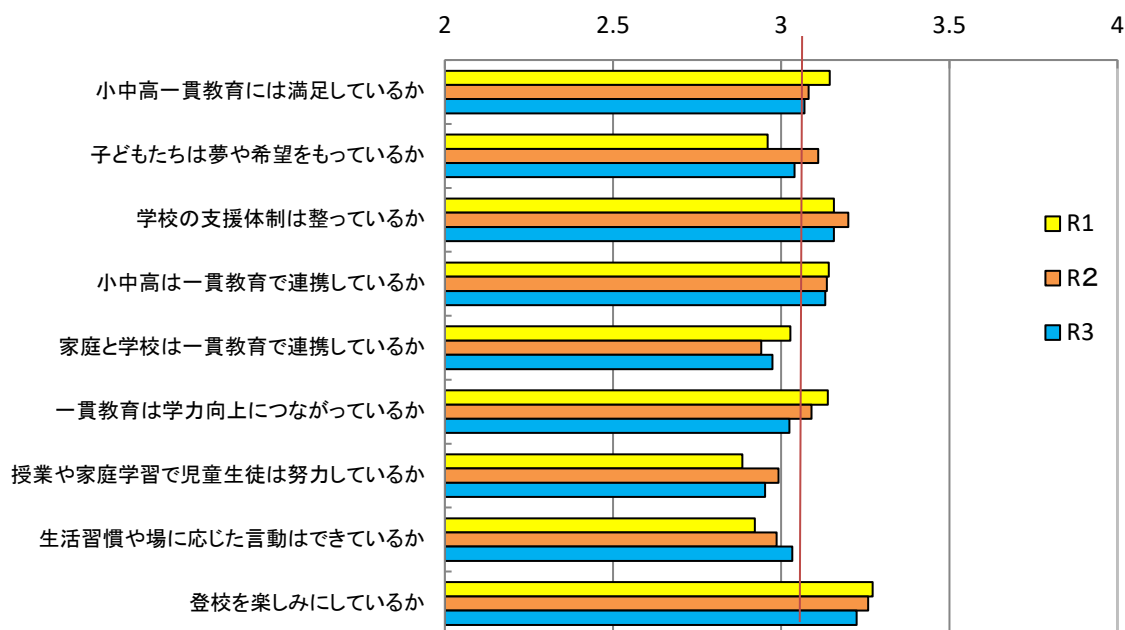


○合同遠足や合同体育祭、海浜清掃、イングリッシュデーなど、交流を伴う行事について、有意義だと感じている児童生徒が多い傾向にある。中でも、地域との交流を含んでいるあじ蒲鉾作りを有意義だとする回答が例年多い。今年度の低下は、昨年度実施できなかったことによるものだろう。

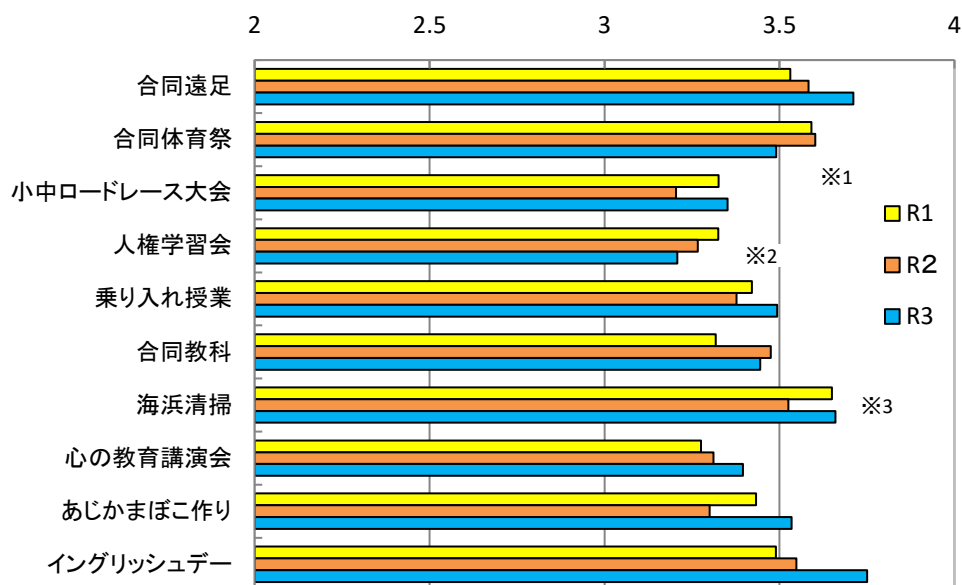
○乗り入れ授業やイングリッシュデーといった学習関係や、体力や忍耐を要するロードレース大会において積極的に活動しているという児童生徒が少なかった。しかし、乗り入れ授業やイングリッシュデーは有意義であると感じている児童生徒は多い。積極的に活動できる工夫等の検討が必要なのかもしれない。

○いずれにしても、行事の目的や意義を児童生徒にもわかりやすく説明し、目的意識を持って参加できるような指導上の手立てが今後も大切であると考えます。

保護者アンケート



保護者アンケート(合同行事の評価)



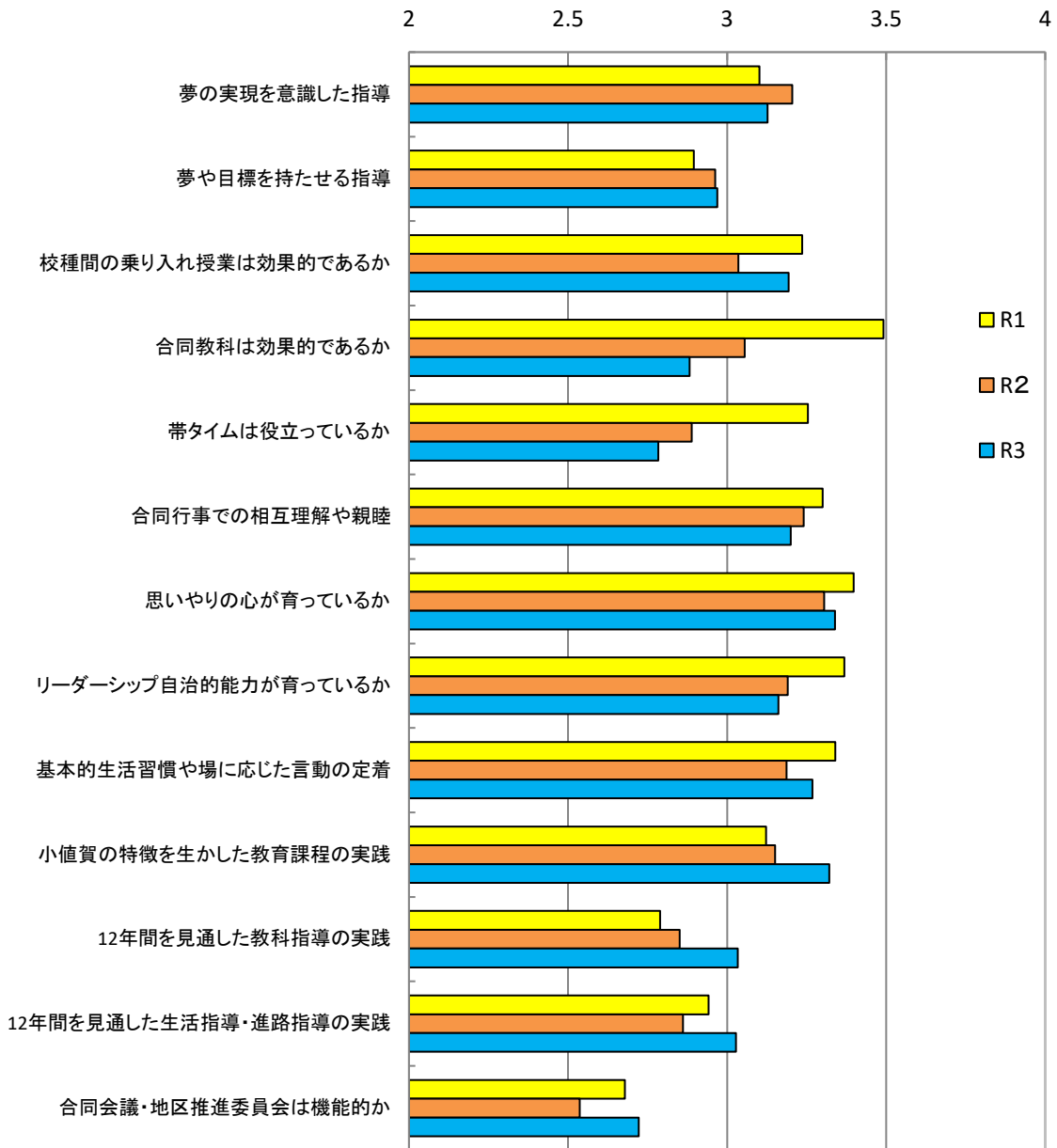
※1 R3合同体育祭は中止 ※2 人権学習はR3より合同行事から除外 ※3 R1海浜清掃は中止

○「小中高一貫教育に満足」の評価を基準値（赤線）にすると、それより高評価を得ているのは「学校の支援体制」「小中高の連携」「登校を楽しみにしている」項目である。一方、基準より低評価なのは「家庭と学校の連携」「学力向上」「家庭学習での努力」である。今後の課題ととらえたい。

○合同行事では、合同遠足や合同体育祭、海浜清掃といった異学年の交流を含む行事が高評価となっている。今後も、行事をとおして小中高生が互いにかかわり合う活動を意識した行事運営に取り組みたい。

○保護者が一貫教育に求めるものをとらえたり、一貫教育の理念と意義を教職員も再確認するなど、運営体制について再検討しながらよりよい在り方を模索していくことが必要ではないかと考える。

教職員アンケート



○「合同行事での相互理解や親睦」「思いやりの心」「リーダーシップ自治能力」などの評価が高いことから、合同行事などによる異学年交流をとおした児童生徒の内面的な成長が、一貫教育の成果であると多くの教職員が認識していることがわかる。今後も校種を越えて職員間で連携して取り組んでいきたい。

○「合同教科」「帯タイム」は昨年度と比べて大きくポイントを下げた。「帯タイム」については、児童生徒の評価は高いものの小学校教職員の評価が低い。小学校において、目的や実施方法などの見直しが必要な時期なのかもしれない。

○「小値賀の特徴を生かした教育課程」「12年間を見通した教科・生活・進路指導の実践」項目についての教職員の意識が、大きくポイントをあげた。小値賀町だからこそできる強みでもあるので、大切にしていきたい部分である。